

年頭所感

年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

第8波となる新型コロナウイルス感染症の中、重症化率は以前より低下してはいますが死亡数や感染者数は増加しており皆様のご施設でも業務対応に追われているかと思えます。もうしばらく医療施設でのコロナ対応は続くと思えますが、最近ではwithコロナを経て5類への類型見直しの検討もはじまり、今年も変化の年になり北海道臨床工学技士会としても様々なニーズに対応できるよう、役員一同取り組む次第です。

昨年を振り返ると、3年ぶりの対面（ハイブリット）での北海道臨床工学会を北海道科学大で開催し約300名が参加しました。WEBでの聴講や発表の方もいましたが、会場では久しぶりの再会や新しい出会いがあり刺激のある学会となりました。

2021年10月の臨床工学技士法改正により、告示研修受講のために日本臨床工学技士会への入会数はここ1年で100名を超え現在約780名となり、道臨工会員と日臨工会員の入会率がようやく50%を超えました。

告示研修登録者は昨年10月で600名を超え、研修完了者は400名を超えています。今後の臨床工学技士の業務発展のためにできるだけ多くの受講を望みます。実技研修は昨年札幌で2回の開催しか招致できず皆様には不自由をおかけしたと思っております。道内地方開催も合わせて招致できるよう道臨工として呼びかけを続けたいと思えます。

今年の大きな事業として第34回北海道臨床工学会と第9回北海道東北臨床工学会を兼ねて東北6県と共催して2023年11月18日（土）、19日（日）函館にて対面開催予定で現在鋭意準備中です。2020年に支部制度が導入されましたが新型コロナウイルス感染症が流行となり、当初予定していた人との繋がりや活性化に積極的に取り組むことができませんでした。今年の函館での学会は支部制導入後なかなかうまく機能していなかった支部連携もうまく利用して、今までにない学会を開催したいと思っております。

東北とのつながりも活性できるような学会にしたいと思っておりますので、多くの演題と参加をお待ちしておりますので皆様どうぞよろしくお願いいたします。

今年度も引き続き職能団体として臨床工学技士の地位向上と道民の健康を守るために専門性の維持・向上できるよう事業に取り組みたいと思っております。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、本年が皆様にとって、大きな飛躍の年になることを祈念いたします。